

沼田市水道料金あり方検討委員会会議録

会議名	第1回沼田市水道料金あり方検討委員会
日 時	令和6年5月24日（金）午後1時30分～午後4時15分
場 所	テラス沼田5階 第3委員会室
出席委員 (敬称略)	米本委員長、青地副委員長、井熊委員、伊藤委員、久保委員、近藤委員、
市	武井都市建設部長、関上下水道経営課長、小野上下水道整備課長 本間経営係長、根岸経理係長、生方主任 オリジナル設計（株）酒井氏、石川氏
	1. 開会 2. あいさつ 3. 水道事業経営戦略について 4. 議題 （1） 検討委員会設置の目的 （2） 沼田市水道事業の概要 （3） 水道料金のしくみ （4） 沼田市の水道料金 （5） 財政収支見通し （6） 沼田市水道事業の課題 5. その他 6. 閉会
資 料	・次第 ・委員名簿 ・沼田市水道料金あり方検討委員会設置要綱 ・沼田市水道料金あり方検討委員会（第1回）資料

会議録	1. 開会 2. あいさつ ・委員長あいさつ ・事務局を代表し、都市建設部長あいさつ ・各委員及び事務局自己紹介 3. 沼田市水道事業経営戦略について ・水道事業経営戦略【概要版】に基づき、事務局より説明 4. 議題 ○議事 (1) 検討委員会設置の目的 事務局より、「沼田市水道料金あり方検討委員会（第1回）資料」に基づき、説明 【質疑・意見】 委員 「前回の委嘱式の際にもお伺いしたが、検討委員会のスケジュールについては、本日、第2回の日程を決められると思われるが、できれば第2回～第4回までの日程を決めていただきたい。」 事務局 「次第の5 その他で第4回までのスケジュールを決定させていただきたい。」 委員 「今の委員の意見について、先の日程について、この場で決定するのは皆さん難しいと思われる。本委員会については代理がきかないとお伺いしたので、先の日程を決めるのであれば、年間スケジュールを出していただいたうえで、事前に日程調整をしていただきたい。」 委員 「第2回の開催候補日については、前回からすでに出ているはずなので、よく調整していただきたい。」 事務局 「スケジュールについては候補日を2日間示したうえで、5 その他で決めさせていただきたい。」 委員長 「スケジュールについてはよろしいか。定足については過半数ということなので、全員ではないと思われる。」
-----	--

会議録	(2) 沼田市水道事業の概要 事務局より、「沼田市水道料金あり方検討委員会（第1回）資料」に基づき、説明。 【質疑・意見】 委員 「新浄水場を白沢に建設することで、現在の浄水場の予備水源を使用できなくなると思われるが、その場合、緊急用の水の調達についてどうお考えか。 また、水道料金の改定は30年間行われてこなかったが、現在物価が上がってきている中で、今回の改定はタイミングが悪いように思われる。今年に起こった能登半島のような地震が沼田市で起きた際に、緊急用の水の調達が課題となる。 今回の料金改定の試算は、災害等緊急時に必要と思われる予備水源等の整備費用などは計算に含まれているのか。」 事務局 「浄水場の新設後も、現在の浄水場の敷地と予備水源からの配管は残るので、災害時に移動可能な浄水ユニットを用い、浄水を作るなど、今後検討していきたいと考えている。 また、新たな水源を求めることは、費用的にも、技術的にも大変厳しい状況である。よって新浄水場建設予定地を白沢とすることにより、白沢簡易水道と緊急災害時用の配管ルートの作成が可能となり、異常時にお互いの水を送るような対策の検討も考えている。」 委員 「白沢簡易水道は市の管理となっているのか。」 事務局 「市直営の管理となっている。」 委員 「沼田市では地形の特性上活断層があるが、隆起や亀裂が生じた際に、取水ルートが寸断されてしまう。そのような事態も想定しなければ、水道料金の試算はできないのではないかと思う。」 事務局 「水道料金の試算については、水道事業経営戦略【完全版】の27ページ、第6章の中で、計画期間の10年間に関わる施策を根拠に試算しているが、委員ご指摘の部分は試算に含まれていない。」 委員 「先ほど指摘した部分を料金改定の試算に含めることで、追加の工事が発生し、また何度も料金改定をすることにならないようにすべきだと思う。きちんとした設備を作ることを試算に含めた提案をしなければ市民は納得しない。」 委員 「料金改定について、5年度毎の見直しは決定事項なのか。あらかじめ検討会の中で、見直し時期についても協議されるものなのか。国の方で3年から5年の間で見直しをすると書いてあったため、沼田市の考えをお聞きしたい。」 事務局 「日本水道協会という機関が、水道料金算定要領というものを出示しており、3年から5年を見直しの基準としている。本委員会では、水道事業経営戦略に基づき、料金改定について審議のうえ、検討していただきたい。」 委員 「現在、沼田市の人口は約46,000人くらいで、半分の約23,000人が水を使用していることになる。資料では1人あたりの水道料金の計算例が示されているが、1世帯あたりの水道料金の計算例を出していただきたい。」 事務局 「次回の委員会までに世帯を考慮した計算例が分かる資料を提出させていただきたい。」
-----	---

会議録	(3) 水道料金の仕組み 事務局より、「沼田市水道料金あり方検討委員会（第1回）資料」に基づき、説明。 【質疑・意見】 委員 「現在、沼田市では横塚工業団地にて企業誘致を行っているが、どのような企業が誘致されるのか分からないはずだ。水をたくさん使用する企業が来た場合、今回の計画した浄水場の能力で賄えるのか。また、料金体系には一般用、営業用とあるが、今回の改定で料金が高くなりすぎると、企業が来ない可能性もある。 このような点も踏まえて、資料を作成し、市民に説明していくべきだ。 計画では誘致された企業の使用水量を予測した試算はされているのか。」 事務局 「現状、用途別で、営業用というところが3%ほどであるが、一般的な工場は営業用として区分されてはいない。今回の提案でお示しするが、用途別から口径別という費用体系にすることによって、公平性を保たれるような料金体系になるので、検討をいただきたい。」 委員 「体系についてもそうだが、横塚工業団地に企業が誘致され、水を多く使用する企業が来た際に、現状の計画で水量を賄えるのか。」 事務局 「誘致する企業の需要が分からない中での試算になるため、水量が不足しないよう、水量については、少なく計算している。具体的に数値として、300m³/日の新規需要を見込んだ試算をしており、仮に倍の600m³/日になった場合でも、現在計画をしている新浄水場の能力で賄えるであろうと考えている。」 委員 「料金体系や料金改定率について、説明があったが、沼田市側で体系や改定率を示したうえ、本委員会で意見をすれば良いのか。専門的な部分があり、意見を述べるのは難しいと思われる。 また、先ほどの意見に関連して、料金改定に影響を及ぼす要因は今後発生する中で、料金改定の見直しについては、5年間は実施しないのか。以上2点を確認したい。」 事務局 「料金改定のパターンについては、第3回の委員会にて事務局案をお示しする。事務局案に基づいて、委員の皆さんの意見をいただきたい。2点目の料金改定の見直し期間については、社会情勢が変わることも含め、5年毎の改定を考えている。」 委員 「提供された資料によると、今後10年間で、人口が6,000人減少する予測のもとで試算されているが、予測以上に減少すれば、水道料金はさらに上がる計算になるのか。」 事務局 「今の計画では支えきれない状況になってくる。」 委員 「途中で急激に人口が減少すれば、水道料金がさらに上がるということか。」 事務局 「人口減少も社会情勢の変化の1つとして考えられるため、計画と現実の差を広げないよう、5年ごとに計画の見直しを行い、現実的な水道料金の設定を図っていきたいと考えている。」
-----	---

(4) 沼田市の水道料金

事務局より、「沼田市水道料金あり方検討委員会（第1回）資料」に基づき、説明。

【質疑・意見】

委員 「資料4－3にて、県内の他市との料金比較とあるが、沼田市は過疎地であり、中小企業が多く、一般の会社員の給与はかなり低いと思う。他の地域と状況が異なるので、単に料金の比較をするのではなく、世帯ごとの年収や賃金を考慮して作成すべきではないかと思う。」

事務局 「委員ご指摘のとおり、単純に料金の比較のみを示した表である。次回までに賃金や世帯を考慮した資料を提出させていただきたい。」

委員長 「簡易水道の料金に関するデータも出してもらった方がいいのでは。」

事務局 「本委員会で検討していただくのは上水道の料金ではあるが、参考までに市営簡易水道の料金について分かる資料を次回提出させていただきたい。」

委員 「簡易水道について、市営簡水以外に各町がやっている簡易水道組合があると思うが。」

事務局 「組合営簡易水道が3つ、小水道が4つある。」

委員 「組合営の簡水に関するデータも示してもらった方がいいかなと思う。いずれは統合していくのか。」

事務局 「いずれかは考えている。」

(5) 財政収支見通し

事務局より、「沼田市水道料金あり方検討委員会（第1回）資料」に基づき、説明。

【質疑・意見】

委員 「資料5－2 下段の資料について、給水人口を100人にした場合の1人あたりの負担額が示されているが、実際の数値による試算をしたデータの方が議論がしやすい。
例えば平成27年については、実際の人数分かっているので、実際の人数を使用して試算をした方が議論がしやすい。」

委員 「計画では令和15年時点の人口の試算がされている。令和6年度についても現在の人口が分かるので、1人あたりの負担額についても、実際の数値と計画の数値を使用したデータを出していただきたい。」

委員 「実際議論する際には、細かいデータが必要になってくると思うので、現実の人数で試算したデータを用いた方が、議論がしやすい。」

事務局 「例えとして100万という数値を使用しているが、実際の人数や予測の人数を加味した試算は可能である。ただ、負担額については、実際の数値を使用してしまうと、年によって金額が変わってくることもありえるため比較にならないということもある。」

委員 「計画では10年後の収支も試算しているので、データを活用すれば負担額などのデータに反映させることができるのでは。」

事務局 「経営戦略の完全版に示した計画の給水人口等を使用したデータを、次回提出させていただきたい。」

会議録

- 委員 「経営戦略【完全版】の中で、財源に関する取り組みについて、国庫補助金という項目があり、国庫補助金の採択要件を満たしていないため活用予定はない、とあるが、令和6年度以降、国庫補助金を、将来の収支に組み込んでいくということが、経営戦略の計画から感じられるところではある。
- 今回の試算の中に国庫補助金の活用について試算されているのか。また、管路の更新や耐震化の整備についても今回の計画に含まれているのか。国庫補助金の活用ができれば、水道料金の改定幅を低く抑えられると感じるところではある。」
- 委員 「管路の更新や耐震化等についても、水道料金で負担をしていると思うが。」
- 事務局 「本来はこの先5年でやるものについて、この先10年、15年延伸して行っているような状況である。最終的にかかるお金は同じだが、それを期間を長く設定したようなイメージで計画に盛り込んでいる状態である。」
- 事務局 「現状、浄水場の新設に活用できる国庫補助金がないため、本計画の試算には含まれていない。また、管路の耐震についても、新浄水場の建設を優先することで、延伸することになる。」
- 委員 「資料には沼田市の水道管路の状況として、耐用年数が超過している配水管が全体の28.4%とあるが、現状年間約0.3%とのペースで更新とある。単純に計算すると、300年かかることになるが、浄水場の新設と管路更新のどちらを優先していくのか。財源の中に入れ込んで実施するのか、それとも進捗が遅くなっていくのか。
- 今後は、管路の更新費用も財源に含めた計画の検討は考えているのか。」
- 事務局 「管路更新の財源については、計画に記載のとおり、8億8千万円を見込んでいるが、更新の不足分については次期計画に含める形になると思われる。管路の更新は区間毎に区切る事ができるが、浄水場の新設については、1度着手すれば途中で中断することはできないということもあり、今回の経営戦略で示した計画は新浄水場の建設を中心に実施するものとなっている。」
- 委員 「浄水場建設のための費用として起債を活用すると思うが、資料では年利1.5%とある。今金利が上昇傾向となっている。そのあたりの考慮はされているのか。また、新浄水場の建設によって既存の浄水場の再活用の議論が出てくると思うが、再活用による利益も考慮した試算をするのもよいのかと思うが、含めているのか。」
- 事務局 「既存の浄水場については、今回の計画では10年間の計画に必要な費用を想定している。既存の浄水場は、新浄水場が建設・稼働しなければ、活用をすることができないので、次期経営戦略策定の際に盛り込みたいと考えている。」
- 委員 「経営戦略の30ページに官民連携の検討とあるが、本計画時で官民連携をした上で、費用を削減していく予定なのか。それとも次期計画でこの官民連携をしていくものなのか。
- 国もウォーターPPPの推進をしているので、考え方を伺いたい。」
- 事務局 「新浄水場の建設が、今後の10年の中に入るため、官民連携を検討していきたい。」

会議録	(6) 沼田市水道事業の課題 事務局より、「沼田市水道料金あり方検討委員会（第1回）資料」に基づき、説明。 【質疑・意見】 委員 「計画についても、費用が足りないので実際に料金を上げるということであるなら、結論を出す、料金を具体的に何%上げるということを、本委員会で提言していくのであれば、人口減少が進み、水の需要がなくなった時に、具体的に今後5年、10年、予算が足りないなどの話が出ないと、我々としても責任取れないと思う。また、管路の更新率が0.3%とある。水道料金の検討については、資料もしっかり出していただいて、今後検討していかないと、料金を上げることにに関して、異論はないと思うが、単純に5年、10年のことで行っていると、多分足りないという話になるかと思う。その辺はもう少しいろいろな資料を出していただいて検討して、短期間にどのくらい何をして、そのために費用がどの程度かかるのか、それが10年後、20年後の子どもの世代や孫の世代に引き継がないように、なんとかできないか、というところまで検討していくべきだろうと思っているのでよろしくお願いしたい。」 委員 「現在水道料金を3箇所分支払っている。料金については、各会社別、建物別、個人別であったり、また、何カ所の家庭、何カ所の事業所が払っているかどうか、そこからいくらの水道料が今納められているかという点も考えていくべきであり、単純計算で人口割り試算するものではないと思うので、細かい資料も必要ではないかと思う。また、漏水についても考えていくことは、今後必要である。水道料金というものを考えていくうえで、検討しなければならないと改めて思う。」 委員 「老朽化等については、色々と難しい問題だと思う。水道料金については、簡易水道と上水道で料金が異なっている。人口の増減が各地域ではあるとは思いますが、簡易水道区域、例えば下町と上水道区域の水道料金を比較すると、簡水区域の料金はかなり安い。上水と簡水の不公平さについてはどうか。」 委員長 そのあたりの不公平差については、周りの状況も判断しながら、やっていく必要があると感じる。」
-----	--

会議録	事務局 「沼田市は地形の関係で、たくさんの簡易水道がある。維持管理についても、給水面積や人口、地形、水源の種類、水源までの距離など、いろいろな要因によって差が生じており、施設改良、取水や浄水方法の違いなど、地域毎に施設の特徴が異なっており、維持管理費についても一律ではなく、これらの簡易水道はそれぞれの成り立ちの違い、経営状況の格差などで、水道の原価も異なっている。各簡易水道事業ごとに、料金の格差が生じているのが実情である。 今回、皆さんにお伺いしている、水道料金のあり方検討委員会は、簡易水道については含まれていないが、各簡易水道事業においても、給水人口の減少や、施設の老朽化に対する取り組みは急務だと考えている。水道料金の検討はもちろんだが、今回の上水道の料金を改定後は、直営の簡易水道が最優先になると思うが、改めて経営戦略の見直しや、本委員会と同じような形のものを設置し、検討も適切な時期に行いたいと思うので、よろしくお願いしたい。」 委員 「簡易水道については、成り立ちがそれぞれ違うところで、浄水施設とも、下水道も違うので、なかなかまとめづらいというのは伺っているところではあるが、人口が少なくなっていく中で、簡易水道を維持するのもそれなりの費用がかかっていくと思う。 上水道区域だけ料金が安い状況で、また、簡易水道もだんだん人口規模が減ってきて、維持できない状況になってきているようだとすると、同じような時期に見直しをしないと、市民の皆さんからすると不公平感が募ってしまうのかなと思う。市民に納得できるような資料を出して、人口が減るだけで、料金を増やすということではなくて、沼田市の方でも経営努力をしたり、新浄水場を整備することによって、将来的な維持管理費用が減ったりする可能性もあるので、そういった説明も、丁寧に説明する必要があると感じる。今回の説明だけ見ると、人口が減るから料金を上げなきゃいけない、さらに新しい浄水場を作るから、その費用もかかるというように受け止められた。 各委員から出た意見で、市も努力をしている上で、長い将来を見据えると、今やらなければいけないことや、今改定をしないと、孫の世代まで、この水道が引き継いでいけないというような状況を説明した方がいいと思う。また、説明に伴う資料を提供していただきたい。」
-----	--

- 委員長 「人口規模等の状況によっては簡易水道の料金も上げなければならないということが、今後出てくるかもしれないが、その辺も含めて一切見えてこない状態なので、資料がもう少し出てきたらいいと思う。」
- 委員長 「出てきた話をまとめると、今回示された資料の大半が経営側の話であり、住民の生活スタイル（水量の平均どの程度使用しているかなど）の典型的なパターンや、最低賃金の分布がどのようになり、料金改定によって影響を受ける住民がどの程度いるのかが分かる資料が少なく感じる。また、企業誘致の話もあり、料金の改定については、人口減少の話があったが、料金を上げることで、転出入に影響するという視点もある。逆に水道料金を下げることで、例えば清涼飲料水の関連会社の誘致なども考えられる。市の企業誘致の呼び込みの戦略と一致してるのかという点もある。市民の方や企業への影響の資料が充実しているといいと思う。防災面、漏水や、管路の更新など細かい費用関係の、金利、物価の予想など、難しいとは思いますが、課題として出てきたので、その辺の課題について確認いただきたい。」

5 その他 次回開催日程と審議内容について説明

6. 閉会